

指定番号 3 桐生市近代化遺産絹撚記念館
(旧模範工場桐生撚糸合資会社事務所棟)

所在地	巴町二丁目 1832-13
建築年代	事務所棟：大正 6 年（1917） 倉庫：昭和 8 年（1933）
建築概要	事務所棟：木骨石造 2 階建て、鉄板葺 倉庫：土蔵造り 2 階建て、棧瓦葺
特徴等	明治 35 年、当時の殖産興業政策により全国 6 か所の模範工場の一つとして桐生撚糸合資会社が設立。大正 7 年には日本絹撚株式会社と改称され日本最大の撚糸工場へ発展。現在の桐生駅南口一帯の広大な敷地に洋式機械を導入したノコギリ屋根工場や女工の学校や宿舍などが立ち並んだ。現存の事務所棟は大正 6 年に建設、大谷石積みの木骨構造で、県内最古の石造洋風建造物に位置付けられている。昭和 40 年代に金融機関として部分的な改変があったが、現在は、昭和 9 年頃の外観に復元されており、歴史資料の展示を中心に絹撚記念館として使用されている。桐生の織物業の近代化のあり方を示すと共に、織物業の発展に一翼を担い、当時の歴史を物語る建造物として貴重である。
備考	市指定有形文化財（平成 6 年 10 月 14 日）、平成 24 年改修



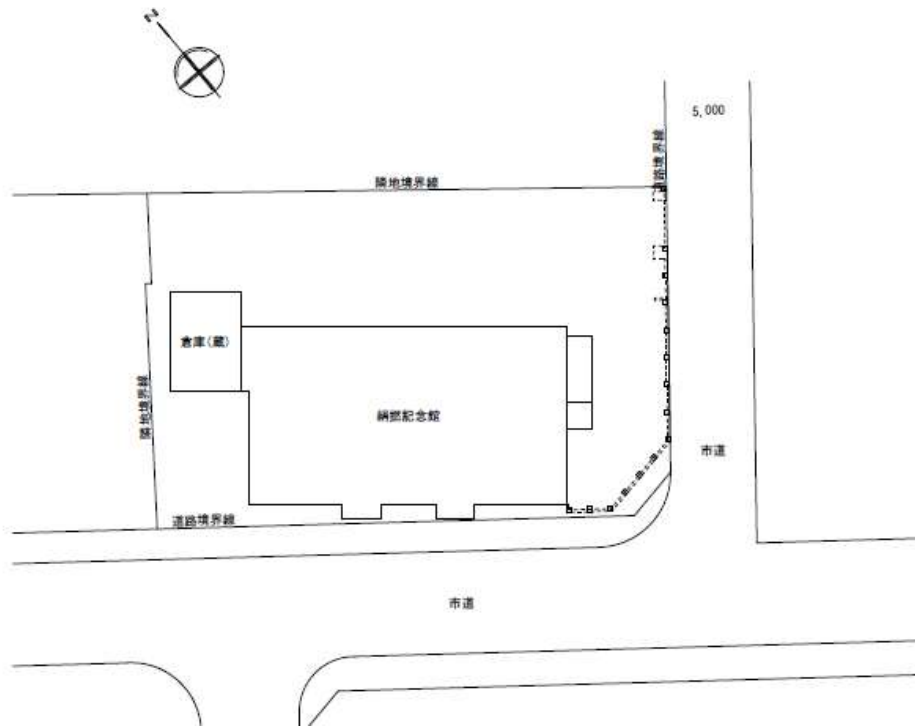


写真1 建物外観



写真2 建物内部